

清和源氏ゆかりの地を巡る一冬の樹木

最明寺滝～満願寺～多田神社 観察会 のご案内

観察委員会

- ・ 阪急山本駅から能勢電多田駅まで、道中の自然と清和源氏ゆかりの社寺などを探索します。
- ・ 植木生産1000年の歴史を誇る宝塚市・山本の町から、最明寺川を遡ると「最明寺滝」があります。
- ・ 次に、「井植山荘」を経て、源氏一門の祈願所として信仰された「満願寺」を訪ねます。
- ・ 「満願寺」のミニ88か所巡りを通り、自然緑地「北雲雀きずきの森」を見て、住宅地を通りぬけ、里山の田舎道を散策しながら「多田神社」に向かいます。
- ・ 「多田神社」は清和天皇のひ孫源満仲をはじめ源氏五公を祀る清和源氏発祥の地と言われ、境内には日本一の唐椿の老木その他、オガタマノキ、タラヨウ、ムクロジの大木などがあります。
- ・ 細い道を往復する所もあって、先発組は9：30、後発組は10：00山本駅集合とします。

1. 期日 2月16日（金）

当日朝のNHKTVの左上の天気予報で「兵庫南」の午前または午後の降水確率が50%以上で中止

2. 集合場所・時刻

阪急山本駅	先発組（3班、2班）	9時30分
北出口（地上）	後発組（4班、1班）	10時00分

3. 観察コース（添付地図参照）

阪急山本駅⇒宝教寺⇒辰巳橋⇒最明寺滝（往復）⇒辰巳橋⇒井植山荘⇒満願寺
⇒宝塚大学グラウンド⇒北雲雀きずきの森⇒宝塚医療大学⇒川西市湯山台（住宅街）
⇒湯山地蔵尊⇒多田神社⇒能勢電多田駅 （歩行距離：約7km）

4. 持ち物等

ハイキングスタイル

昼食、飲料、ルーペ、双眼鏡、図鑑、雨具、ストック等。

5. 添付資料

エクセルシート2：社寺の由来など

エクセルシート3：観察コース地図

最明寺滝



鎌倉幕府第5代執権北条時頼が出家後、最明寺殿と名乗り諸国を遍歴したおり滝の美しさに惹かれこの地に庵を結んだといわれることから、この名がついた。最明寺滝は歌人和泉式部や、藤原一族が遊んだと言う落差10mほどの滝で、「年を経てみやまがくれのほととぎす聴く人もなく音のみぞ鳴く」の歌が残る。（年を経て山深く隠れ棲むほととぎすは聞く人もいない鳴き声をしきりにたてていることよ）滝の横に ルリミノキやナガバジュズネノキが生えている。

満願寺



724年に千手観音を本尊として創建。多田に居を構えた源満仲が帰依して以来、源氏一門の祈願所、後には後醍醐天皇の勅願寺、足利將軍家の祈願所として栄えたといわれている。山門両側の金剛力士像は、神仏習合の江戸時代までは多田院（今の多田神社）の山門にあったが、明治初年神仏分離により満願寺に移された。多田に本拠をおいた源満仲が帰依して繁栄したという関係などから、寺地は宝塚市域内にありながら（多田神社のある）川西市の飛び地となっている。裏山の自然林は瀬戸内沿岸の典型的なシイ林で宝塚市及び川西市指定の天然記念物になっている。

北雲雀きずきの森



雲雀丘の北丘陵に46年前まであった花屋敷ゴルフ場が移転して、それ以降放置されたままの荒地になっていたが、8年前に宝塚市が28%を取得した。自然の移り変わりに「気付き」、自然を楽しむ「木好き」、より良い自然を作り上げる「築き」の3つの思いを込めて、「きずきの森」とネーミングされている。動物や植物が豊かな自然緑地で、近隣住民のボランティアによって整備されている。

多田神社



多田神社は川西市にある神社で、「多田院」として国の史跡に指定されている。清和天皇の曾孫で、この地に居を構えた源満仲が970年に多田院を建立。源満仲公をはじめ源氏五公をお祀りしている清和源氏武士団発祥の地といわれる。明治以前までは多田院と称した寺院であったが、神仏分離の際に神社となった。その際、南大門にあった金剛力士像が満願寺に移され山門の両脇は空になっている。多田院の檀家であった薩摩藩島津家より寛文年間(1661年～1673年)に贈られた唐椿(キャプテンロー)は国内最大の唐椿。牡丹のように大きな花が4月中旬に咲く。その他、境内にはムクロジやオガタマノキの巨木が聳え立っている。



金剛力士像が満願寺に移され、空になった多田神社南門

平成30年2月16日 自然観察会 （最明寺滝－満願寺－きずきの森）

集合場所：阪急山本駅 北出口（地上）

集合時間：3班、2班 9：30

4班、1班 10：00



観察コース （歩行距離：約6.7 km）

阪急山本駅⇒宝教寺⇒辰巳橋⇒最明寺滝（往復）⇒辰巳橋⇒井植山荘⇒満願寺

⇒宝塚大学グラウンド⇒北雲雀きずきの森⇒萩原台BS⇒（バス）⇒川西バスターミナル